

～貧困の連鎖を断ち切るために～



人がその社会の中で生活するために「通常得られるものが得られない」「できることができない」状況を相対的貧困といい、そのような状況は子どもに非常な孤立感・疎外感を持たせる原因になるといわれています。

そのような中、経済的理由（ひとり親世帯、生活保護世帯、生活困窮世帯等）で「学習」する環境が整っていない子どもたちが「家庭でゆっくり勉強を見てもらえない」「塾に通いたくても通えない」等の状況に置かれ、学力不足で高校進学をあきらめたり、進学しても授業についていけず中退するケースも多くみられます。これらが学力の低下をもたらし、進学や就職においても不利に働くことで、生まれ育った環境（家庭）と同じように経済的に困窮する「貧困の連鎖」を引き起こしているといえます。

そうした親から子への貧困の連鎖を断ち切るため国の責務で対策を進めようと「**子どもの貧困対策法**」がつけられました。しかし、法律ができたことでそれらがすべて解決するわけではありません。学習の遅れだけではなく、将来の目標などを持たない子ども達に対し、自信や達成感を持たせ、学習意欲の向上を図りながら居場所の提供を通じて社会性の育成も行うことが重要です。

そのような中、子どもたちに無料で勉強を教える学習支援の取組が、浦添市でも広がろうとしています。今月の社協だよりはそんな活動を紹介いたします。



～地域の子どもは地域で育て、ふるさとを愛する心に～

地域住民が「先生」の 浦添グリーンハイツ自治会 ☎874-5977

平成22年8月～寺子屋教室を開設し、平成28年4月現在で5年9か月を経過しました。毎週火・木曜日の午後4時～6時まで公民館を開放し、学習支援活動をしています。子どもの参加は毎回10名～20名程度で、宿題や自主学習の他、漢字検定の支援も行っています。また、知育指導のひとつとして、将棋やオセロ等の玩具も取り入れて楽しく行っています。寺子屋を通して、子どもたちの顔と名前がわかり、地道な世代間交流に繋がっています。



立ち上げに関わった
前自治会長の松本さん

学習力アップだけでなく、地域の子と大人のつながりや地域の子を周りの大人がちゃんと見守っているよ、という場になればいいなと思っています！

～学問の空回りを修正したい！子どもの気持ちに立った支援とはなにか～

ボランティアで学習支援に 関わり続けて約2年の瀬長さん

私のねらいは、子ども達の人間的なパワーを育てていくことにあります。そのために必要な最低限の4つの基本を心に持ち、子どもと接しています。

学習支援という名のもとに、子どもの話を聴くことがいちばんの私の狙いです。



①子どもたちに自信をつけてもらうこと

自信を取り戻して社会へ送り出してあげること。勉強というものは本人がやる気になればすぐに伸びるものです。学問は楽しくしてしまわないことです。タイミングが大切です。

②教育そのものは心を開いてもらわないとはじまらない

信頼できない人の言葉は、耳には入りません。理解できない生徒が悪いのではなく、理解できるように伝えきれていない大人にも責任はあるのではないのでしょうか？

③こちらからすきになっていく

自分に自信がないと人をすきになれません。そんな余裕はないのです。だからこそ、伝え方はタイミングが大切です。その子にあったタイミングでの声掛けが必要です。

④学問の空回りを修正したい

子どもが大人の期待通りにならないのは当たり前のこと。人生思うようにはならないものです。見返りを求めず、大人も子供も、しなやかに生きるのがいちばんです。

